

平成18年度 二松学舎大学COEプログラム公開講座

18年度本プログラムが開催する特別講義等は、日本漢文学研究又は漢文文献の調査・整理に関心を持つ若手研究者及び書誌調査の専門技能者を育成するために開くものです。対象は 学内外の大学院生及び院生レベルの若者を主とし、他にひろく一般社会人等にも、講義あるいは講習等を通じて必要な基礎知識と技能を身につけることを目的としています。

◆受講料 : 無料 ◆対象者 : 学生、研究者、教員、図書館員及び一般の方 ◆会場 : 本学九段校舎

| 講座名  | 内容                   | 講師    | 所属                             | 時限等  | 参加人員         |
|------|----------------------|-------|--------------------------------|--|--------------|
| 特別講座 | 1 漢字の文化史             | 大島 正二 | 本学<br>東アジア学術<br>総合研究所<br>客員研究員 | 木曜日4時限<br>前期・後期  | 締め切り<br>ました。 |
|      | 2 江戸の漢詩              | 石川 忠久 | 本学 前学長                         | 木曜日6時限<br>注)4参照  | 締め切り<br>ました。 |
| 演習講座 | 3 漢籍書誌学              | 高山 節也 | 本学 教授<br>(拠点リーダー)              | 水曜日2時限<br>前期・後期  | 締め切り<br>ました。 |
|      | 4 古文書解読講座            | 町 泉寿郎 | 本学 専任講師                        | 火曜日2時限<br>前期・後期  | 締め切り<br>ました。 |
|      | 5 『教訓抄』の研究           | 磯 水絵  | 本学 教授                          | 木曜日4時限<br>前期・後期  | 締め切り<br>ました。 |
|      | 6 古訓読解演習             | 佐藤 進  | 本学 教授                          | 火曜日4時限<br>前期・後期  | 締め切り<br>ました。 |
| 集中講座 | 7 漢文訓読論              | 石塚 晴通 | COE客員研究員                       | ① 7/24~28<br>② 12/18~22<br>2・3・4時限                     | 締め切り<br>ました。 |
|      | 8 江戸文化の諸問題—書誌学的見地から— | 中野 三敏 | COE客員研究員                       | ①7/10~12<br>7/14・15<br>② 1/22~24<br>1/26・27<br>2・3・4時限 | 締め切り<br>ました。 |

|                       |    |                |  |                |  |                                     |              |
|-----------------------|----|----------------|--|----------------|--|-------------------------------------|--------------|
| 文献資料書誌<br>技能者<br>養成講座 | 9  | 和古書の装訂について     | 宮内庁書陵部所蔵本の中には、書誌学の概説書などの説明とは異なる史料が存在する。例えば、現在綴葉装(列帖装)と呼ばれている装訂が、江戸時代に大和綴と認識されていたことを示す史料。また本の大きさをあらわす言葉に四半本・六半本がある。この大きさは一枚の紙を四つ、六つに裁断し、それぞれの紙を縦に二つ折りした大きさと言われているが、実存する四半本・六半本はこの説と異なる。これらの史料から、書誌学上通説となっている幾つかの見解について再考し、併せて装訂史の問題点について触れてみたい。   | 榎筒 節男          | 宮内庁書陵部                                       | 土曜2時限<br>①6/3<br>②6/10<br>③6/17     | 締め切り<br>ました。 |
|                       | 10 | 古代資料と文字表記      | 漢字が伝来して初めて、倭の国の言語を文字で書き記すことができるようになった。それまで口頭でのみ用いられていた「日本語」が歴史上に検証可能なものになった。ただ、漢字の伝来がそのまま日本語の表記を可能にしたわけではなかった。そもそも漢字は中国語を書き表すための文字である。それを用いて言語構造の異なる日本語を書き綴り、そして読みやすく書きやすくするために、さまざまに繰り広げられた工夫の数々を辿ってみたい。  | 沖森 卓也          | 立教大学文学部 教授                                   | 土曜2時限<br>④7/8<br>⑤7/15<br>⑥7/22     | 締め切り<br>ました。 |
|                       | 11 | 海外における日本関連の古典籍 | 海外を訪書すると日本関連の古典籍に必ず出会う。国書や漢籍・韓籍の和刻本・日本写本だけではない。それらに基づく海外の復刻書や注釈書、和刻版木を用い海外で印刷された書、日本人の補修・装釘・蔵書印や書き入れのある中国版・朝鮮版なども日本に関連する。中国関連・韓国関連と置き換えても類例は少なくない。それら古典籍には流出ないし伝播の教唆な歴史が秘められていることを、管見の及んだアジア・欧米各国の蔵書における実例をあげつつ解説する。   | 真柳 誠           | 茨城大学人文学部 教授                                  | 土曜2時限<br>⑦10/14<br>⑧10/21<br>⑨10/28 | 締め切り<br>ました。 |
|                       | 12 | 明治期の翻訳語と漢語の諸問題 | 1720(享保5)年、徳川吉宗は蛮書の禁書令を緩和した。キリスト教関係を除いた蘭書と漢訳洋書が輸入され、蘭書は翻訳書が、漢訳洋書は和刻本が出版された。翻訳書は「解体新書」に代表され、和刻本は「全体新書」や「官版万国公法」などに代表される。そこに使用された中国語が、1854(安政元)年の日米和親条約後の英書の翻訳語に利用された。和英辞典の編纂には英華字典English and Chinese Dictionaryの中国語が借用された。そのとき、日本に存在しない概念や制度は、新語を誕生させた。こうした西洋化に伴う日本語と中国語との交流について述べたい。<br>1. 日中の異文化交流2. 西洋化と新語3. 文化開化と日本語 | 飛田 良文          | 国際キリスト教<br>大学 名誉教授<br>明海大学外国<br>語学部 客員教<br>授 | 土曜2時限<br>⑩11/11<br>⑪11/18<br>⑫11/25 | 締め切り<br>ました。 |
|                       | 13 | 日本に於ける漢籍古写本の現況 | 日本の漢文受容は、遠く平安時代以前に遡るが、写本で伝え読まれた漢文資料が、出版文化の隆盛に伴って、貴重な文化遺産となって、今日に至り、未整理の状態になっている現状について講義する。   | 高橋 智           | 慶應義塾大学<br>斯道文庫<br>教授                         | 土曜3時限<br>⑬11/11<br>⑭11/18<br>⑮11/25 | 締め切り<br>ました。 |
|                       | 14 | 『米欧回覧実記』読解     | 米欧回覧実記』は、明治初年に行われた岩倉使節の公式記録で、著者である久米邦武自身の興味や好悪をできるだけ排除したものと例言に記している。一方、欧米社会の実況を伝えるのに、著者自らが培った文体に頼らざるを得ず、公式とは言い折々の景色に対する驚きや、出会いへの感動が表現として現れるのも当然であろう。今回は、『米欧回覧実記』第一編(アメリカ合衆国の部)を読み、とくに久米が幼年から身につけた漢文脈のイメージと表現を検証しながら、日本語に出現した「世界」の魅力を探ってみたいと考えている。テキストは『米欧回覧実記』   | ロバート・<br>キャンベル | 東京大学<br>助教授                                  | 土曜2時限<br>⑯12/2<br>⑰12/9<br>⑱12/16   | 締め切り<br>ました。 |